

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（社会福祉学科）
2024年4月1日現在

社会福祉学科 社会福祉コース

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
障害者福祉論	逆瀬川浩二	40	必須	講義	3年	今日、障害者福祉の考え方は、国連の人権宣言やノーマライゼーションの理念に基づいて発展してきている。本科目ではまず、障害者福祉の理念と考え方、歴史の変遷、法体系、障害者運動の展開、障害の種類とニーズの多様性など、障害者に関する基礎知識を学修する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に紹介する。障害者福祉に関する施策は近年多くの変化を見せつつあるが、これを単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で生きる理解を深める。 当科目は、社会福祉士として障害者施設の管理者を務める講師のもと、福祉の現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
社会保障論	遠藤修正	40	必須	講義	2年	本科目では、社会保障制度全体についてくまなく概説した上で、今後社会保障制度が対応していかなければならない問題は何かを検討する。年金、医療、介護保険など各制度については、制度の詳細についても学修する。そのことにより、社会福祉の現場で働く場合に必要となる、社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することになる。社会保障制度は頻りに改正が行われている。教科書だけでなく、様々な文献で最新の動向を把握しながら、学修すること。 当科目は、社会福祉協議会の職員として地域福祉事業に従事した経験のある社会福祉士の講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
高齢者福祉論	原田亘	40	必須	講義	1年	急速な高齢化の進展に伴い21世紀半ばには3人に1人が65歳以上という超高齢社会が到来することが予想される。このような現状をふまえて、現代社会における高齢者福祉の概念・意義について理解するとともに、高齢者の精神的・身体的特徴や障害、高齢者福祉の社会的背景について考察する。また、高齢者福祉のニーズ、方法およびサービスの体系について学修し、高齢者に対する福祉サービスの現状について理解する。 当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
高齢者支援展開論	遠藤修正	40	必須	講義	4年	福祉サービスは、人が人と関わり合うなかで成立する、よりよく生きていく過程への関与である。これに対して、介護は介助・看護の技術に、監護、つまり、人を見守るという教育的な意味合いが加味された概念である。本科目では、加齢疾病や障害等による要介護者への福祉サービスの提供と介護のあり方を、介護支援サービスの必要性和その位置づけ、社会福祉(対人サービス)との関連性など、可能な限り多くの角度から検討する。また、居宅サービス、施設サービス事業の具体的な内容も検討する。 当科目は、社会福祉協議会の職員として地域福祉事業に従事した経験のある社会福祉士の講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	堀田利恵	40	必須	講義	2年	本科目では、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。特に、ソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス(相談援助の展開過程)と、様々な実践モデル及びアプローチについての理解を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術を学修し、ケアマネジメントや集団を活用した支援、コミュニティワーク等の理論と展開方法、スーパービジョンやコンサルテーションの専門知識と技術についての理解を深める。 当科目は、司法福祉の保護観察官、社会福祉の生活保護CW、児童虐待防止推進員、学校福祉の教育委員会SSW等に従事した経験があり、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師資格の講師のもと、複合的、重層的な支援例を交えて実践知識を学びます。
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	森奈祐	40	必須	講義	2年	ソーシャルワークの支援対象となる人たちが抱える問題の複雑化・多様化に対応するため、地域共生社会の実現に向け、ソーシャルワーカーには、さまざまな実践が求められる。本科目では、総合的かつ包括的な支援の展開についてのイメージを描きやすくするために、家庭支援、地域支援、非常時や災害時支援の三つの実践について学ぶ。 さらに、援助関係の形成方法や留意点、ネットワークの形成、社会資源の活用・調整・開発、カンファレンス、事例分析、事例検討、事例研究、ソーシャルワークに関連する技法(ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリューション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャル・マーケティング)についての理解を深める。 当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもとで、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
ソーシャルワーク演習Ⅰ	遠藤修正	40	必須	演習	1年	ソーシャルワーク演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 ソーシャルワーク演習Ⅰは「ソーシャルワークの基礎」という位置づけとなり、個人、集団、地域といった、いわゆるソーシャルワーカーが支援の対象とするクライアントシステムについて基礎的な理解を図るとともに、働きかけの方法としての基本的なコミュニケーション、システムの特徴について学習する。 ソーシャルワーク演習Ⅰが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 1) 自己覚知への取り組みを通じて、自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。 2) コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。 3) 基本的な面接技術について説明ができる。 4) ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 5) ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。 6) ソーシャルワーク実践に必要な記録についてその特性を説明することができる。 7) 集団(グループ)の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。 8) 地域(コミュニティ)に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。 当科目は、社会福祉協議会の職員として地域福祉事業に従事した経験のある社会福祉士の講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
ソーシャルワーク演習Ⅱ	遠藤修正	40	必須	演習	2年	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 ソーシャルワーク演習Ⅱは「ソーシャルワークの展開」という位置づけとなり、ソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえて、ソーシャルワーク・プロセスの展開とプロセスにおいて活用される面接やプログラム分析、アウトリーチやチームアプローチといった技術についてトレーニングする。 ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 1) ケースワークのプロセスについて説明ができる。 2) 基本的な面接技術について実践できる。 3) グループワークのプロセスとソーシャルワーカーの役割について明瞭な説明ができる。 4) グループワークにおける専門技術について実践できる。 5) コミュニティワークのプロセスについて説明ができる。 6) アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発といった援助技術についてその目的と方法について説明ができる。 当科目は、社会福祉協議会の職員として地域福祉事業に従事した経験のある社会福祉士の講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。

科目名	講師	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
ソーシャルワーク演習Ⅲ	伊里みゆき	40	必須	演習	2年	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク演習Ⅲは「ソーシャルワークの実践」という位置づけとなり、これまでのソーシャルワーク演習Ⅰ及びソーシャルワーク演習Ⅱにおいて学習した内容を踏まえ、それらの知識と実践技術を、事例を通じてより実践的に活用し、総合的、また横断的な理解の促進を図る。</p> <p>当科目は、社会福祉協議会で社会福祉士として地域福祉に従事してきた講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
ソーシャルワーク演習Ⅳ	伊里みゆき	40	必須	演習	3年	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>ソーシャルワーク演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関して事例をもとにその内容を検討するとともに、今までに学習した内容を総合的に学習し理解を深めます。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また地域の特性や課題を適切に把握し、課題を解決するための理論と技術について、やはり事例を用いて実践的に理解を深めます。</p> <p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。 2) 事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。 3) グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。 4) 地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 <p>当科目は、社会福祉協議会で社会福祉士として地域福祉に従事してきた講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
ソーシャルワーク演習Ⅴ	戎弘志	40	必須	演習	4年	<p>社会福祉に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を養う。集団を活用した相談援助の意義、目的、方法、留意点について学修する。特に高齢者、精神障害者、アルコール・薬物依存者等に対する集団援助技術や自助グループについて、事例を通して学び、各分野の個別領域への理解を深める。</p> <p>当科目は、障害者施設や特別養護老人ホームの施設長を経て、長年にわたりソーシャルワークの実習指導に携わってきた社会福祉士の講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	森奈祐	40	選択	講義	2年	<p>この科目では、社会福祉実習現場の現状と課題、相談援助実習と実習指導の意義、実習先で必要とされる相談援助に係る知識、技術、実習先で行われる介護や保育等の関連業務や、実習の記録内容及び記録方法、巡回指導の必要性等、実習全般に関する基本的な事項を学修し、学生一人ひとりの実習に臨む動機や学修目標を明確化する。個人情報保護法の施行を踏まえ、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の重要性を理解する。</p> <p>当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉全般の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	森奈祐	40	選択	講義	3年	<p>この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習分野（利用者理解を含む）と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。スクーリングでは、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。</p> <p>当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
社会福祉運営管理論	原田亘	40	必須	講義	4年	<p>今日、地域社会においては福祉サービスに対する様々なニーズが存在し、また新たなニーズも生まれている。こうした多種多様なニーズに対しては現場職員の個人的スキル任せでは到底対応できるはずがなく、同じ理念を持つ人々が結集して組織を作り、そこにヒト、カネ、情報などの経営資源を結集し、調整し、配分し、多くのニーズに応えていくこと、すなわち経営管理というものが要求されてくる。したがって今日では、地域社会の福祉サービスの実践にとっては福祉サービスを提供する組織とそこにおける経営管理のあり方について理解することが必須となっている。</p> <p>本科目が社会福祉士の受験科目「福祉サービスの組織と経営」と同義であり、また地域社会のニーズや社会状況の変化に応じて組織や職場の機能を評価し、必要な組織改革をおこなうことが社会福祉士の行動規範のひとつとして求められていることを忘れてはならない。福祉サービスの経営管理を「利用者を取り巻く環境とのかかわり合いを通しての間接的な社会福祉援助技術の実践」という位置づけで理解する必要がある。</p> <p>したがって、政策の変遷、法令等の制度、福祉サービス施設の業務内容を知るだけでは本科目を学修したことにはならない。福祉サービスの理念を実現するための組織内部での仕組みづくりや方策について実践的に学ぶことに心がけること。福祉サービスもそれ以外の組織も共通したところが多いので、自分がこれまでコンビニ等のアルバイト先や文化・娯楽サークルに所属した時の体験、また現職社会人ならば、会社等の職場での様々な経験や素朴な疑問点を思い起こすなどして、職場、組織についての自分なりの問題意識を持ちながら、各自勉強を進めてほしい。</p> <p>当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理士として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
更生保護	堀田利恵	40	必須	講義	4年	<p>犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び非行を起させないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉という自立支援が必要である。これらの支援は、警察、検察、裁判、矯正の各段階で行われているが、本科目では、この内の社会の中で働きかけ（処遇）を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、精神障害等の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには、更生保護制度の実際と今後の展望について学修する。</p> <p>当科目は、司法福祉の保護観察官、社会福祉の生活保護C.W、児童虐待防止推進員、学校福祉の教育委員会SSW等に従事した経験があり、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師資格の講師のもと、複合的、重層的な支援例を交えて実践知識を学びます。</p>
合計		600	時間			

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
精神疾患とその治療	平石太一	40	必須	講義	3年	精神医学は、こころの病の学問であるが、最近急速に脳科学との関連性が解明されてきている。その一方で、精神医学を理解するためには、人やこころの理解、人間社会についての知識も不可欠である。患者の生育歴、生活環境、人間関係、心理状態、文化風習など、さまざまな側面を切り離しては、病の本質が見えてこない。 本科目では、精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を学ぶ。まず脳神経細胞の生理的理論を知り、次に精神医学の概念として疾患の成因や分類について学ぶ。そして代表的な精神疾患である器質性精神障害・認知症・アルコールや薬物による精神や行動の障害・統合失調症・気分障害・神経症性障害などについての知識を獲得し、精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携について理解する。 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
教育・学校心理学	平石太一	40	必須	講義	3年	教育心理学とは、子供を教育していく上で必要となる知識を身につけ、子供の成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探求する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎知識修得はもちろんなこと、事例ののっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
臨床心理学概論	平石太一	40	必須	講義	2年	臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達の観点からの臨床心理学の人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、様々な臨床心理学の援助の方法についても概観する。その上で、臨床心理学実践の様々な領域についての学修を重ね、実践における臨床心理学的な視点や思考方法を身につける。臨床心理学の援助としての心理療法の成り立ち、心理療法の代表的な理論についても理解する。 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
心理学的支援法（基礎）	橋本景子	40	必須	講義	2年	カウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界やカウンセリングの土台となる人間の心のメカニズムについて理解し、面接中に生じる様々な現象とカウンセリングのプロセスについて基礎的な内容を学ぶ。また、カウンセラーの基本的態度や面接技法、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について、討議や演習を通して実践的に理解する。さらに、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮などの倫理的側面についても理解する。 当科目は、臨床心理士として、中学校、高等学校、市役所等でカウンセリングを行ってきた講師のもと、業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
心理学的支援法（演習）	橋本景子	40	必須	演習	3年	カウンセリングの理論は、医療、社会福祉、教育などの現場で幅広く活用・実践されている。そこで、カウンセリングとはどのようなものなのか、そしてカウンセリングに必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から学修していく。また、カウンセリングは比較的新しい学問領域であるため、いくつもの理論が存在しているが、その中でも基礎となる、精神分析、来談者中心療法、行動療法（認知行動療法）の三つを中心に学修していく。また、訪問による支援や地域支援の意義、心の健康教育についても学ぶ。 当科目は、臨床心理士として、中学校、高等学校、市役所等でカウンセリングを行ってきた講師のもと、業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
障害者・障害児心理学	原田亘	40	必須	講義	3年	障害者の心理を学ぶことは、障害の種類について理解することから始まる。それは、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害、精神障害といったものが挙げられ、それぞれの障害ごとに学修する。また、心理学的視点から見た、それぞれの障害を持つことでの行動パターンや心理特性について学んでいく。障害児・者に関わる専門家にとって、それぞれの障害の原因や症状に関わる、科学的な基礎理解が不可欠である。症状を引き起こすメカニズムや、重症度やその予後などが正確に理解できていなければ、行動を客観的に評価できず、十分な心理的援助が期待できない。すなわち適切な心理的援助をするためにも、生理的・病理的な基本理解が必要であることを認識すべきである。その上で、人間学的視点から、障害児・者としていかに生きるか、その家族としていかに生きるか、それを専門家としてどのように支えるのかについて考察を進め、身体障害、知的障害及び精神障害の概要、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について理解する。 当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
心理学を活かしたキャリアデザイン	平石太一	40	必須	講義	1年	心理学部の学生は、心理学の各分野の理解を深めると共に、社会福祉、精神保健福祉、教育などの心理学近接領域におけるヒューマンサービスの実情を学び、それぞれの現場で心理学の知見を応用していくための基礎的な力を身につけることが期待されている。その背景には、心理学を学ぶ学生が、多様なキャリアを展開させることが想定されている。本科目では、改めて心理学部に入学したことを踏まえて、心理学を学ぶことの意義を考えながら、心理学を活かした職業やキャリアの多様性を学び、社会人として踏み出すための自己理解と、将来働く場についての理解を促す。 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
心理学を活かしたキャリアマネジメント	平石太一	40	必須	講義	2年	心理学部の学生は、心理学の各分野の理解を深めると共に、社会福祉、精神保健福祉、教育などの心理学近接領域におけるヒューマンサービスの実情を学び、それぞれの現場で心理学の知見を応用していくための基礎的な力を身につけることが期待されている。その背景には、心理学を学ぶ学生が、多様なキャリアを展開させることが想定されている。本科目では、「心理学を活かしたキャリア・デザイン」において学んだことを踏まえて、心理学を活かした将来展望やキャリア形成について、より具体的に考える。特に資格取得を想定している場合は、資格を活かして働く自分をイメージし、実現するためには何をなすべきかについて整理し、以下を学修目標とする。 1. 心理の仕事について具体的にイメージできるようになる。 2. 心理専門職について理解できるようになる。 3. 自分の仕事にどのように心理学を活かせるかについて、具体的なイメージを形成することができるようになる。 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。

科目名	講師	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
感情・人格心理学	橋本景子	40	必須	講義	4年	感情・人格心理学とは、個人の内側から人間の行動の法則をみようとするものである。なお、人格とは、性格とほぼ同じ意味で用いられるが、態度、興味、価値観並びに知的理解度などを含んだ全体的な特徴を指す。ここでは人格と性格とを分けない考え方に立ち、様々な観点から人格の特徴を明らかにしていく。本科目では、人間とは何か、人間の本質を理解し、自己理解だけでなく、他者を理解し、人を見る目を養成することが目標である。人を見るときに、様々なバイアスがかかるが、それがなぜかということを理解し、説明できるようになることも学習目標の一つである。具体的には以下の通りである。 1. 性格とは何か、その研究史からも理解できる。 2. 性格に関する諸理論が分かり、多面的に人の行動を見ることができる。 3. 性格の診断の仕方が理解できる。 4. 性格の形成のされ方が分かる。 5. 性格の正常・異常について様々な観点から理解できる。 6. 感情に関する理論を理解し、感情喚起の機序並びに感情の行動への影響について説明できる。 当科目は、臨床心理士として、中学校、高等学校、市役所等でカウンセリングを行ってきた講師のもと、業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
心理学的支援法（心理療法）	平石太一	40	必須	講義	3年	心理療法の理論は、40を越えるものがあり、変遷進歩しつつある領域である。その中でも広く実践されているものとして、精神分析的療法、クライアント中心療法、行動療法、認知行動療法、家族療法、芸術療法、森田療法、内観療法、集団心理療法などの考え方を学ぶ。それぞれの理論や定石を知ることで、目の個人に即応するよう工夫し、クライアントの資質や周りの資源の力を生かせるような援助を可能にするために、それぞれのアプローチに関する効用と限界に関する理解を深める。事例論文を読み、ディスカッションを通して実践的な理解を図る。 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
産業・組織心理学	新實千恵里	40	必須	講義	4年	人は社会生活を送る上で、必ずといっていいほど組織集団に所属することになる。本科目では、組織という社会的文脈の中で、個人が状況をどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらに、リーダーシップ行動や組織における意思決定の〜功罪などを学ぶことにより、職場における問題（キャリア形成に関することを含む。）に対して必要な心理に関する支援、組織における人の行動について理解を深める。本科目は、組織が産業効率を上げるための心理学だけではなく、個人がメンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、職務満足や職場におけるストレスなどについて理解を深める。 当科目は、企業等の産業カウンセラー、キャリアカウンセラー、キャリアコンサルタントを務める講師のもと、業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
福祉心理学	原田亘	40	必須	講義	3年	福祉では、支援を必要とする人々を対象として支援を行う。かつては児童が中心であったが、青年期、中年期、高齢期と生涯発達の見解の中で、その援助が考えられるようになった。福祉現場で生じる問題及びその背景、福祉現場での心理社会的課題及び必要な支援方法、特に虐待、認知症に関する必要な支援方法について学ぶ。 当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
心理学研究演習Ⅰ	橋本景子	60	必須	演習	4年	心理学は人間の心や行動を科学的に研究し、人間を幸せにする学問である。そこで、人間の心理と行動をどのように調べるか、診断するか、具体的に人間はどのような時に、どのような行動をするか、日常生活の中での具体例を調べてみる。 当科目は、臨床心理士として、中学校、高等学校、市役所等でカウンセリングを行ってきた講師のもと、業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
心理学研究演習Ⅱ	橋本景子	60	必須	演習	4年	本科目では、卒業研究や研究論文等、実際の論文作成における基本についての指導を行う。そこで、学生一人ひとりが興味を持つ分野における問題点とその解決方法について考えていくこととする。具体的には、自分が興味を持つ分野において、どのような問題があり、それについて何がどこまでわかっているのかを調べ、どのような方法で解決策を考えることが出来るのかについて検討していく。 当科目は、臨床心理士として、中学校、高等学校、市役所等でカウンセリングを行ってきた講師のもと、業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。
合計		600	時間			

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
保育児童学概論	田口早苗	40	必須	講義	1年	人間の生涯発達の中での初期段階である乳幼児期について、その発達の様相を学び、子どもが育つことの本質を考えるとともに、子どもを育てることの意義について理解する。すなわち、子どもは人的環境をはじめさまざまな環境とのかかわりのなかで育つが、特に「愛着と自律」の観点から考える。また、子どもは生活のなかで育つことから、今日の生活環境の変化を背景として「育つ」「育てる」の関係も変化していることを踏まえ、子どもの発達のしかたの実情に基づいて、保育者に求められるあり方について考える。これらの学習を通して、保育の重要性についての認識を確かなものにする。 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
保育児童基礎演習	坂鏡子	40	必須	演習	3年	保育実習に先立ち、保育の実際に触れるとともに、実習生としての基本的なあり方を学ぶ。保育の物的・人的環境（保育施設、設備、人的構成）、保育者と子どもの関係、子ども同士の関係など、知識として学んだことを実際に確認しながら、自らの保育所実習・施設実習への具体的目標や抱負について意識化する。また施設実習について、実習施設の種別ごとの意義や特徴について理解し、実習施設の選択に備える。 手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居、ペープサートなど保育の基本実技を身につける。自分の日常生活の改善を図り、実習への意欲を高める。 当科目は、公立の児童センターや子育て支援センターのセンター長を経て、現在も子育ての支援を行うNPO法人の理事長を務める講師のもと、保育現場における実例を交え、保育の実践的な知識を学ぶ。
保育者論	田口早苗	40	必須	講義	1年	保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎的知識・技能、保護者支援の方法、実践的学習とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つよう学習する。 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
保育原理	坂鏡子	40	必須	講義	1年	乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味を持つことは、諸科学の進歩とともにますます強調されている。特に自己を主張し始める乳幼児期にあつては、保育者の側に乳幼児に対する十分な理解と洞察がなければならない。そして保育者が保育実践の中で何をめざしているのか目的をしっかりと持つことが重要である。本科目では、保育の歴史と現状、意義、課題、基本的原理、さまざまな保育思想などの基本知識を学びながら、確かな保育観、子ども観、あるいは発達観を築く。 当科目は、公立の児童センターや子育て支援センターのセンター長を経て、現在も子育ての支援を行うNPO法人の理事長を務める講師のもと、保育現場における実例を交え、保育の実践的な知識を学ぶ。
乳児保育 I	鈴木みどり	40	必須	講義	2年	わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。 当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
保育内容（健康）	田口早苗	40	必須	講義	2年	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園・保育要領における健康領域のねらいと内容について理解し、習得することで、幼児期の発育・発達を理解し、子どもが自ら考えて行動し、問題解決できるように育む保育者を目指す。また、保育者として子どもの健康な心と体を育てることができるよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようにする。 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
保育内容（環境）	高木芳子	40	必須	講義	2年	保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境及び環境設定について理解する。保育の全体構造における環境に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。また、演習形式で学ぶことにより、「環境」で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。 当科目は、保育士として保育所で保育に従事していた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
保育内容（表現）	鈴木みどり	40	必須	講義	1年	乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育者には、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、意志のある「表」と無意識のうちに現れる内的変化である「現」をそれぞれ大切に受け止めるための理解力を身につける必要がある。 本講義では、講義と演習を通して、乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。 到達目標 1. 保育内容「表現」のねらいと内容について理解し、説明することができる。 2. 乳幼児の発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができる。 3. 自ら表現することにより、自己発見、自己認識を経て、保育者自身が豊かな表現者となるよう、自己表現力を高める。 4. 乳幼児の「表現」を支える保育者の役割について理解し、説明することができる。 5. 乳幼児の「表現」を援助するための方法を身につける。 当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
保育内容総論	鈴木みどり	40	必須	講義	2年	保育内容の5つの領域（保育所は「養護」的内容が加わる）は保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。 当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
保育カリキュラム論	田口早苗	40	必須	講義	3年	乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。また、「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
幼児理解	鈴木みどり	40	必須	講義	3年	<p>保育は、幼児一人ひとりの発達の特성에応じ、発達の課題に即した指導、援助を行うことが重要である。そこで、本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。</p> <p>当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
乳児保育Ⅱ	鈴木みどり	40	必須	講義	3年	<p>乳児保育で学んだことを基礎として、保育を実践するために必要となる乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について、実践的な視点から具体的かつ総合的に理解する。</p> <p>当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
保育内容総論Ⅱ	鈴木みどり	40	必須	講義	3年	<p>幼稚園修了までに子どもが経験し、育つことが期待されている事項、すなわち「ねらい」を達成するための内容が保育内容である。この科目では、①保育内容（5領域）を総合的に把握する、②期待される事項がどのような活動を通して、経験されていくのかを実践とつなげて理解する、③子どもの発達段階にふさわしい主体的な活動を捉える目を持ち、適切なかかわりを考える、等を中心内容とする。</p> <p>当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
保育実践演習	坂鏡子	40	必須	演習	4年	<p>本科目は、これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、及び専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることの二点が目標になっている。ここでは前者を踏まえながらも後者を中心に現在の保育実践上の課題、子どもや子育てに関わる環境上の諸問題を自ら発見し、その改善に向けての方策を考え、実行することができるよう、問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態度を養う。そのために現在の保育問題（少子化、保育制度、子育て支援、幼小連携等）を調べたり、実践法を工夫するなど、身近な具体的課題を設定し、グループ討議、研究発表、レポート作成等を行う。</p> <p>当科目は、公立の児童センターや子育て支援センターのセンター長を経て、現在も子育ての支援を行うNPO法人の理事長を務める講師のもと、保育現場における事例を交え、保育の実践的な知識を学ぶ。</p>
子どもと造形	山田大空	40	必須	実技	2年	<p>本授業では、領域「表現」のなかの「造形」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。</p> <p>① 乳幼児の造形による表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>② 造形による様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>到達目標は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2) 造形を生成する過程について理解している。 3) 乳幼児の素朴な造形を通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。 4) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 5) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。 6) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 7) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 8) 様々な造形による表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。 <p>当科目は青少年の健全育成を目的としたNPO法人を設立して絵画教室を運営し、中学校の美術教員の経験も有する講師のもと、図画工作の実践的な知識を学ぶ。</p>
合計		600	時間			

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（教育学科）
2024年4月1日現在

教育学科 教育学ICTコース

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
教師論	奥村一成	40	必須	講義	1年	変化の激しい今日の社会において、学校教育においても様々な課題が生じている。この課題を解決するために、学校教育の主要な担い手である教員の役割が今まで以上に重要になっている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質は何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務（勤務・研修・身分保障などを含む）はどのように規定されているのかなど、教職を志す学生があらかじめ知っておく必要のある事項について考察する。 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
教育法規	木内正範	40	必須	講義	1年	本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育法規に関する基礎的な知識を身につけ、教員採用選考試験問題を解けるようになること、そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。そのために以下の3つの到達目標を設定する。 1) 教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。 2) 教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。 3) 学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる。 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く携わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
道徳の指導法	奥村一成	40	必須	講義	3年	道徳は個人の内面の形成に直接的に関わるために、どのような道徳教育をどのようなかたちで学校教育の中で行うかについては、多くの議論がなされてきており、実際にめぐるしい歴史の変遷をたどってきた。特に新学習指導要領では特別の教科「道徳」となり、道徳教育に対する理解はこれまで以上に重要性が高まってきている。このような道徳教育の理解に向けて、道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義について学修する。そして道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
特別活動の指導法	木内正範	40	必須	講義	2年	特別活動は、生徒の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防的な役割を果たすなど、生徒の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につける。 特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、体験的な学びを重視し、学級活動・ホームルーム活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。 到達目標 1. 特別活動の目標や内容、特質と教育課程における位置づけについて理解し、教育課程全体を意識して計画や指導を行うことができるようになる。 2. 特別活動における評価・改善活動の重要性を理解し、適切な評価・改善活動を実践できるようになる。 3. 特別活動の中核となる「学級活動・ホームルーム活動」について、その特質を理解した上で、指導案（展開案）を作成し、合意形成に向けた話し合い活動を指導できるようになる。 4. 特別活動における家庭・地域等との連携のあり方について理解し、指導に活かせるようになる。 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く携わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
特別ニーズ教育論	花木元司	40	必須	講義	3年	障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1) インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2) わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3) 特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。 当科目は、特別支援学校で障害児の教育にあたってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
国語	松村久美子	40	必須	講義	2年	書写を含む国語（日本語）に関する基礎的・基本的知識理解を確かにするとともに、今日の国語国字問題や国語教育及び言語生活について考える力を育てる。 あわせて、各自の言語生活の向上と世界の言語のひとつとしての認識力を持って母国語としての日本語を尊重し、良くしようとする態度と実践力を養う。 当科目は、小学校での教職経験を持ち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実例を踏まえた実践的な知識を学ぶ。
国語科指導法	松村久美子	40	必須	講義	2年	子どもがすこやかに育つために基本的な必要となる、「話すこと、聞くこと」及び「書くこと」「読むこと」「書写」の力を、保育・子どもの発達支援の専門家として指導できるよう、国語科の目標や内容、指導の方法の概要について、具体的な資料を通して学修する。さらに、幼児・児童の年齢相応の言語活動を具体的に探り、効果的な指導法について考察するとともに、子どもの感性を豊かに育むより良い教材について理解を深め、国語指導に関する知識・技能の習得をめざす。 当科目は、小学校での教職経験を持ち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実例を踏まえた実践的な知識を学ぶ。
算数	松村久美子	40	必須	講義	2年	算数・数学科は、積み重ねの学修であるので、最も習得が難しい教科であることを認識することが必要である。同様に、指導も難しく、指導する段になって初めて、正確で広範な知識習得が必須であることに気づかされる。 この科目を学ぶことにより、指導者が必ず習得しておかなければならない①学習指導要領の重点と概要、②算数・数学科の教育内容と教育方法について高い理解に到達し、初等数学の指導にあたるための基礎を習得することができる。 当科目は、小学校での教職経験を持ち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実例を踏まえた実践的な知識を学ぶ。
算数科指導法	松村久美子	40	必須	講義	2年	本科目は、教育職員免許法で定められた「教職に関する科目」の一つである「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。この科目は小学校での算数科の指導法について学習する。小学校学習指導要領算数科の目標及び内容を踏まえるとともに、算数科において目指す資質・能力を身に付けさせるための不断の授業改善に取り組むことが求められている。この科目を学ぶことにより、授業のための教材研究、下位目標行動の分析、児童の実態調査、学習指導案の作成、模擬授業、評価などを内容とし、研究授業の初歩を習得することができる。 当科目は、小学校での教職経験を持ち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実例を踏まえた実践的な知識を学ぶ。

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
理科	奥村一成	40	必須	講義	2年	理科とは、宇宙がどのようにできて現在の姿になったのか、生命はどのように誕生して進化してきたのか、ということを実験あるいは調査結果をもとに、科学的に検証していく学問である。理科は物理学、化学、生物学、地学に大きく4分野に分けられているが、この授業では明確な境界を定めず、自然現象について総合的に学んでいく。そして、科学的な目で物事を判断する基礎能力を身につけることを目標とする。 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
理科指導法	奥村 成	40	必須	講義	2年	国際化や高度情報化が進む今日では、科学技術の進展が目覚ましく、地球温暖化や環境汚染への関心も高まっている。しかしながら、わが国では次世代を担う若者の理科離れが深刻な問題となっている。この科目の授業では、そのような状況を踏まえた上で、小学生の頃から理科に興味を持ってもらうための指導法について勉強する。 また、「小学校の各学年の理科の目標と内容」や「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」についても学び、教員採用試験に合格できる実力を身につける。 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
生活	小河直子	40	必須	講義	3年	幼児期から児童期へのスムーズな活動の移行を意図して、教科「生活」が設定された。「生活」では、幼児からの連続を踏まえて、具体的な活動や体験を通して自分と身近な環境とのかかわりを大切にしながら実感的に学んで知的な気づきを深めたり、自分自身や自分の生活について考えたり、基本的な生活習慣を身につけたりする。したがって、本科目では、「生活」の趣旨や目標および内容について学ぶ際に、幼児保育との関連を重視する。 当科目は、小学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
生活科指導法	小河直子	40	必須	講義	3年	生活科の特質は、直接体験を重視した学習活動を展開し、意欲的に学習や生活ができるようにすることにある。本科目では、生活科の趣旨や目標・内容を理解した上で、2年間にわたる指導計画や学習指導案の作成を行ったり、模擬授業を行ったりするなどの具体的な実践を伴いながら生活科の指導方法について学習する。その中で、子どもが知的好奇心・探求心をもって主体的に学ぶ学習が成立するための方策について具体的に追求する。 到達目標 1. 生活科の目標、内容、全体構造及び指導上の留意点について理解する。 2. 生活科の特質、子どもの実態を視野に入れた学習指導案及び教材を作成できるようになる。 3. 模擬授業の実施を通して、授業の批判的検討及び授業改善ができるようになる。 4. 適切な学習評価について理解し、実践できるようになる。 当科目は、小学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
教育実習指導（初等）（小学校）	奥村一成	30	必須	講義	3年	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園および小学校で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。 本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解（教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般）、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。 また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園および小学校教育の実践や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。 学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
教職実践演習（小学校）	奥村一成	60	必須	演習	4年	教育実習を振り返りながら、討論、事例検討、ロールプレイ、模擬授業等を行う。 また、教育に対する使命感、責任感、子どもや保護者とのコミュニケーションや授業を行うための様々な準備について理解する。 教員として必要な資質の形成に関して、以下の4項目を具体的到達目標及びテーマとする。 1. 職務に対して使命感や責任感をもち、児童に対する愛憎が豊かであること。 2. 教科や領域等の指導力に関して実践力を身につけること。 3. 社会性や対人関係能力を適切に身につけること。 4. 児童理解や学級経営等に関する基礎的な能力を身につけること。 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。
合計		610	時間			

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
教師論	奥村一成	40	必須	講義	1年	<p>変化の激しい今日の社会において、学校教育においても様々な課題が生じている。この課題を解決するために、学校教育の主たる担い手である教員の役割が今まで以上に重要になっている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質は何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務（服務・研修・身分保障などを含む）はどのように規定されているのかなど、教職を志す学生があらかじめ知っておく必要のある事項について考察する。</p> <p>当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
教育法規	木内正範	40	必須	講義	1年	<p>本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育法規に関する基礎的な知識を身につけ、教員採用選考試験問題を解けるようになること、そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。そのために以下の3つの到達目標を設定する。</p> <p>1) 教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。</p> <p>2) 教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。</p> <p>3) 学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる。</p> <p>当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く関わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
道徳の指導法	奥村一成	40	必須	講義	3年	<p>道徳は個人の内面の形成に直接的に関わるために、どのような道徳教育をどのようなかたちで学校教育の中で行うかについては、多くの議論がなされてきており、実際にめまぐるしい歴史の変遷をたどってきた。特に新学習指導要領では特別の教科「道徳」となり、道徳教育に対する理解はこれまで以上に重要性が高まってきている。このような道徳教育の理解に向けて、道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義について学修する。そして道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。</p> <p>当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
特別活動の指導法	木内正範	40	必須	講義	2年	<p>特別活動は、生徒の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防的な役割を果たすなど、生徒の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につける。</p> <p>特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、体験的な学びを重視し、学級活動・ホームルーム活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。</p> <p>到達目標</p> <p>1. 特別活動の目標や内容、特質と教育課程における位置づけについて理解し、教育課程全体を意識して計画や指導を行うことができるようになる。</p> <p>2. 特別活動における評価・改善活動の重要性を理解し、適切な評価・改善活動を実践できるようになる。</p> <p>3. 特別活動の中核となる「学級活動・ホームルーム活動」について、その特質を理解した上で、指導案（展開案）を作成し、合意形成に向けた話し合い活動を指導できるようになる。</p> <p>4. 特別活動における家庭・地域等との連携のあり方について理解し、指導に活かせるようになる。</p> <p>当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり、特別支援教育にも深く関わってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
特別ニーズ教育論	花木元司	40	必須	講義	3年	<p>障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1) インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2) わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3) 特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。</p> <p>当科目は、特別支援学校で障害児の教育にあたってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
国語	松村久美子	40	必須	講義	2年	<p>書写を含む国語（日本語）に関する基礎的・基本的知識理解を確かにするとともに、今日の国語国字問題や国語教育及び言語生活について考える力を育てる。</p> <p>あわせて、各自の言語生活の向上と世界の言語のひとつとしての認識力を持って母国語としての日本語を尊重し、良くしようとする態度と実践力を養う。</p> <p>当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実例を踏まえた実践的な知識を学ぶ。</p>
国語科指導法	松村久美子	40	必須	講義	2年	<p>子どもがすこやかに育つために基本的に必要となる、「話すこと、聞くこと」及び「書くこと」「読むこと」「書写」の力を、保育・子どもの発達支援の専門家として指導できるよう、国語科の目標や内容、指導の方法の概要について、具体的な資料を通して学修する。さらに、幼児・児童の年齢相応の言語活動を具体的に探り、効果的な指導法について考察するとともに、子どもの感性を豊かに育むより良い教材について理解を深め、国語指導に関する知識・技能の習得をめざす。</p> <p>当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実例を踏まえた実践的な知識を学ぶ。</p>
算数	松村久美子	40	必須	講義	2年	<p>算数・数学科は、積み重ねの学修であるので、最も習得が難しい教科であることを認識することが必要である。同様に、指導も難しく、指導する段になって初めて、正確で広範な知識習得が必須であることに気づかされる。</p> <p>この科目を学ぶことにより、指導者が必ず習得しておかなければならない①学習指導要領の重点と概要、②算数・数学科の教育内容と教育方法について高い理解に到達し、初等数学の指導にあたるための基礎を習得することができる。</p> <p>当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実例を踏まえた実践的な知識を学ぶ。</p>
算数科指導法	松村久美子	40	必須	講義	2年	<p>本科目は、教育職員免許法で定められた「教職に関する科目」の一つである「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。この科目は小学校での算数科の指導法について学習する。小学校学習指導要領算数科の目標及び内容を踏まえるとともに、算数科において目指す資質・能力を身に付けさせるための不断の授業改善に取り組むことが求められている。この科目を学ぶことにより、授業のための教材研究、下位目標行動の分析、児童の実態調査、学習指導案の作成、模擬授業、評価などを内容とし、研究授業の初歩を習得することができる。</p> <p>当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実例を踏まえた実践的な知識を学ぶ。</p>

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
理科	奥村一成	40	必須	講義	2年	<p>理科とは、宇宙がどのようにできて現在の姿になったのか、生命はどのように誕生して進化してきたのか、ということを実験あるいは調査結果をもとに、科学的に検証していく学問である。理科は物理学、化学、生物学、地学に大きく4分野に分けられているが、この授業では明確な境界を定めずに、自然現象について総合的に学んでいく。そして、科学的な目で物事を判断する基礎能力を身につけることを目標とする。</p> <p>当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
理科指導法	奥村一成	40	必須	講義	2年	<p>国際化や高度情報化が進む今日では、科学技術の進展が目覚ましく、地球温暖化や環境汚染への関心も高まっている。しかしながら、わが国では次世代を担う若者の理科離れが深刻な問題となっている。この科目の授業では、そのような状況を踏まえた上で、小学生の頃から理科に興味を持ってもらうための指導法について勉強する。</p> <p>また、「小学校の各学年の理科の目標と内容」や「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」についても学び、教員採用試験に合格できる実力を身につける。</p> <p>当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
生活	小河直子	40	必須	講義	3年	<p>幼児期から児童期へのスムーズな活動の移行を意図して、教科「生活」が設定された。「生活」では、幼児からの連続を踏まえて、具体的な活動や体験を通して自分と身近な環境のかかわりを大切にしながら実感的に学んで知的な気づきを深めたり、自分自身や自分の生活について考えたり、基本的な生活習慣を身につけたりする。したがって、本科目では、「生活」の趣旨や目標および内容について学ぶ際に、幼児保育との関連を重視する。</p> <p>当科目は、小学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
生活科指導法	小河直子	40	必須	講義	3年	<p>生活科の特質は、直接体験を重視した学習活動を展開し、意欲的に学習や生活ができるようにすることにある。本科目では、生活科の趣旨や目標・内容を理解した上で、2年間にわたる指導計画や学習指導案の作成を行ったり、模擬授業を行ったりするなどの具体的な実践を伴いながら生活科の指導方法について学習する。その中で、子どもが知的好奇心・探求心をもって主体的に学ぶ学習が成立するための方策について具体的に追求する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活科の目標、内容、全体構造及び指導上の留意点について理解する。 2. 生活科の特質、子どもの実態を視野に入れた学習指導案及び教材を作成できるようになる。 3. 模擬授業の実施を通して、授業の批判的検討及び授業改善ができるようになる。 4. 適切な学習評価について理解し、実践できるようになる。 <p>当科目は、小学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
教育実習指導（初等）（小学校）	奥村一成	30	必須	講義	3年	<p>教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園および小学校で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。</p> <p>本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解（教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般）、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。</p> <p>また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園および小学校教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。</p> <p>学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を視察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。</p> <p>当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
教職実践演習（小学校）	奥村一成	60	必須	演習	4年	<p>教育実習を振り返りながら、討論、事例検討、ロールプレイ、模擬授業等を行う。</p> <p>また、教育に対する使命感、責任感、子どもや保護者とのコミュニケーションや授業を行うための様々な準備について理解する。</p> <p>教員として必要な資質の形成に関して、以下の4項目を具体的に到達目標及びテーマとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職務に対して使命感や責任感を持ち、児童に対する愛憎が豊かであること。 2. 教科や領域等の指導力に関して実践力を身につけること。 3. 社会性や対人関係能力を適切に身につけること。 4. 児童理解や学級経営等に関する基礎的な能力を身につけること。 <p>当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。</p>
合計		610	時間			

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表 (介護福祉 学科)

2024年4月1日現在

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
介護の基本I	五條幸	60	必修	講義	1	障害者福祉、高齢者福祉の現場で介護スタッフとして利用者に関わり、管理者としてスタッフ教育をしてきました。介護福祉士としての基本的な考え方や職業倫理を、これまでの実体験やエピソードを基にした例示や事例検討を交えて、具体的な場面をイメージし、考えながら理解する授業を行います。
介護の基本III	五條幸	30	必修	講義	2	障害者福祉、高齢者福祉の現場の介護スタッフ、小規模多機能型居宅介護や認知症対応型グループホームの管理者として経験を積んできました。地域との連携や地域福祉の開発など、現在の制度とこれまで見てきた実際の地域の状況とその狭間に存在する利用者の生活について、多職種協働の重要性とあり方について、実体験のエピソード等を基にした例示や事例検討を交えて、具体的な場面をイメージし、考えながら理解する授業を行います。
生活支援技術IV	寺田ひとみ	60	必修	講義	2	特別養護老人ホームにて勤務し、高齢者介護に従事してきました。その経験を活かし、障害や疾病のある人の医学的・心理的側面や生活上の困りごとを学び、介護福祉士として具体的な支援内容・支援方法について実技を交えながら授業を実施します。
介護過程I	寺田ひとみ	30	必修	講義	1	利用者に関心を寄せて、利用者がどのようにして生活しているのか、今後どのように生活していきたいのか、その人について深く知ることは重要です。利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するために、専門的な知識・技術を活用し客観的で科学的な思考過程を通して、事例を提示しディスカッションをとり入れながら授業を行います。
発達と老化の理解II	鈴木陽子	30	必修	講義	2	病院勤務の時に、末期がんの高齢者が突然吐血し、救急車で搬送されるということがありました。特に高齢者は本人の症状が正確に言えないことが多々あるために、いつもと様子が違うことにも気づくことが大切であると教えます。高齢者に多い疾患の観察ポイント、症状、介護上で気を付けなければいけないことなどを教えていきます。
医療的ケア演習	鈴木陽子	10	必修	演習	2	看護師として病院勤務をしてきた経験により医療的ケアの重要性を身に付けてきました。法令改正により介護福祉士でも医療的ケアができるようになり、安全、的確かつ確実な方法を身に付ける指導を行っていきます。人の命に関わる重要な項目であるためにデモンストレーションから慎重な授業を行います。
合計				220 時間		